

NPOワンポイントアドバイス!!

～データ入手するためのコツ～

団体が事業計画を作成するときや、より効果的な活動していくためには、活動している地域の状況を正確に知ることが必要になります。とはいっても、大規模な調査などはひとつの団体だけでは実施するのはとても難しいのが現実です。その場合、既に公開されている情報を活用することが有効です。今回は、そのコツをお伝えします。

①RESAS(地域経済分析システム)の活用

<https://resas.go.jp/> (ブラウザは、Google Chromeをお使いください)

- ・国が地域経済に係る様々なビッグデータを収集し、分かりやすく「見える化」したものです。①誰もが使える、わかりやすい画面操作 ②他者の優れた分析結果を全国自治体で共有できる ③永続的に進化し続けるシステムが特徴です。
- 1.産業 2.農林水産業 3.観光 4.人口 5.自治体比較
の分野のデータが載っています。アイデアしだいで、様々な活用が可能になります。

②国勢調査の「小地域集計」の活用

- ・国勢調査のリンク先一覧の下の方にある「小地域集計」という項目の行頭にある「+」マークを開き、都道府県名から北海道を選ぶと、北海道内の集落や字単位でのデータを見ることができます。もちろん、函館市も○○町単位でのデータ入手が可能です。
- ・団体の活動内容と照らし合わせ、必要とされている地域で活動できているかなどを確認しましょう。

③函館市のホームページの活用

- ・函館市も、様々なデータをホームページで公開しています。中には探しにくいものもありますが、トップページの「市の概要・統計」をクリックすると部ごと等に様々なデータが掲載されています。
- ・単年度の統計だけを見るのではなく、複数の年度での変化に注目してみると課題等が見えてきます。また、数字だけではすぐには分かりづらいので、エクセル等を活用しグラフ化してみるのもオススメです。



まちづくりセンター センター長 丸藤 競

今回「はこまち対談」をしていただいた川北さんとは、まちづくりセンターができる前からなので、10年以上のお付き合いをさせていただいていることになります。これまで多くのご指導やアドバイスをいただいてきました。今のまちづくりセンターがあるのは、川北さんのおかげと言っても過言ではありません。

今回の対談も、6月1日に行ったまちづくりセンターや青年センターなど市内の支援センタースタッフへの合同研修と、一般市民向け講座『函館の地域の未来を考える勉強会～みんなで学ぶ

小規模多機能自治～』の合間を縫って実現することができました。今回も川北さんからは色々なお話を聞きましたが、中でも印象に残っているのは「住民は、自治体にとって、お客様ではなく、ともに行動する株主のはず。」という言葉です。まちが進化していくためには、まず株主が行動で示し、るべき姿を実現すべく導いていかなくてはなりません。まちづくりセンターとしても、対談で教えていただいた「函館版 地域デザインカレッジ」の実現等を通じ、函館を「進化していけるまち」にしていきたいと強く思っておりますので、川北さんには、引き続きご指導をお願いしたいと考えています。

なお、川北さんは6月2日には函館市役所で協働に関する研修を行っています。そのときの様子は、川北さんのブログで見ることができます。皆様、ぜひご一読を。

<http://blog.canpan.info/dede/>